

特集 6 IT・Suicaビジネスの今後

駅から街へ。Suicaがもたらす 新しいライフスタイル



●Suicaが実現する「交通のシームレス化」

鉄道の利用は、駅への昇降機の設置や列車の直通運転などを通じて、大変スムーズになりました。さらにSuicaのサービスが始まったことで、お客さまは運賃表を見上げて、目的の駅を探して、運賃を確認し、券売機で乗車券を買うという手間がなくなりました。しかも改札機にタッチするだけで、パスケースからきっぷや定期券を出す必要もないという高い快適性を実現し、「交通のシームレス化」が進みました。特に2007年3月のPASMOとの「首都圏ICカード相互利用サービス」により、SuicaなどのIC乗車券の利用は飛躍的に高まりました。

「交通のシームレス化」は、Suicaが首都圏の「PASMO」やJR西日本の「ICOCA」、JR東海の「TOICA」、JR北海道の「Kitaca」との相互利用を通じてさらに進展しました。2010年春にはJR九州の「SUGOCA」、西日本鉄道の「nimoca」、福岡市交通局の「はやかけん」との相互利用を予定しており、これにより全ての政令指定都市で、Suicaが利用できるようになります。今後は当社の全営業エリアでSuicaが利用可能な環境の整備も進めていきます。

●Suicaが提案する「生活のシームレス化」

Suicaの登場と普及は第1の事業である鉄道事業の出札、改札の業務を大きく変革しました。さらに第2の事業である生活サービス事業の活性化にも貢献しています。これらにとどまらず、ICカードの利点を活かし、電子マネー（決済機能）やID認証機能などを活用した、新たな第3の事業「Suica事業」を創出しました。ご利用シーンは駅ナカから街ナカへ、さまざまな分野、サービスへと拡がり、「生活のシームレス化」が進んでいくと考えています。今後はSuicaをタッチすると、必要な情報や、お得な何かを得られるなど、Suicaで「タッチするメリット」を感じていただけるようなサービスに進化させていきます。

JR東日本では、Suicaを鉄道ネットワークにあまねく広げる「交通のシームレス化」にとどまらず、日常生活のさまざまなシーンで使えるNo.1電子マネーに引き上げることを通じて「生活のシームレス化」を進展させていきます。また、Suicaを軸に蓄積される「生活情報」から、お客さまの欲しい情報を適時適切に提供することにより、新たなライフスタイルの提案や、時代を先取りする新たな価値の創出に向けて取り組んでいきます。

●Suicaの「社会インフラ化」

今や、Suicaは生活に必要不可欠となり「社会インフラ化」しています。このことを通じてSuicaは、鉄道事業の構造改革だけでなく、お客さまの生活スタイルをも革新しました。当社はそれを支える企業として、社会的に重い責任を負うものと考えています。Suicaが安定した真の「社会インフラ」として進化するよう、今後ともシステムの信頼性とセキュリティレベルの向上に最大限の取り組みをまいります。



執行役員
IT・Suica 事業本部副本部長
椎橋 章夫